

授業の視点：食品の概量を実物の食材を用いて指導したことは、食品を栄養的特徴の6つの基礎食品群に分けることを理解し、食品群別摂取量の目安を視覚的に理解することに有効であったか

1 ねらい 食品群別摂取量の目安を理解し、一日に必要な量を理解することができる。

2 準備

教師：教科書、食品カード、実物の食品、ワークシート No.5

生徒：教科書、学習ノート

3 展開

学習活動	指導上の留意点・支援	時間	評価項目
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     栄養成分のよく似た食品をグループ分けしよう                 </div>			
1 本時のねらいを知る。 2 食品カードを栄養成分のよく似た食品ごとに分類する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標を提示することにより学習内容を理解させる。</li> <li>・黒板を使って学級全体で食品のグループ分けをし、食品に対する関心を高めさせる。</li> <li>・栄養的特徴で分類したものが、6つの基礎食品群であることを理解させる。</li> </ul>	25	・6つの基礎食品群について理解している。(ワークシートへの記入状況)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     一日にどのくらい食べればいいだろう                 </div>			
3 食品の概量を知る。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                         実際の食材を用いて                          食品群別摂取量の目安を視覚的に理解させるために、実物の食材を用意する。                          卵や豆腐、魚、野菜など6つの基礎食品群について1日にどれくらいとればいいのか、今後の調理実習や家庭での実践につながるようにする。                     </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な栄養素をバランスよくとるために一日に必要な量を示したものが食品群別摂取量の目安であることを理解させる。</li> <li>・それぞれの量について教科書や資料などで具体的にとらえさせる。</li> <li>・食品群別摂取量の目安とあわせながら、普段食べている食品の概量を実物を見せながら理解させる。</li> </ul>	20	・食品の概量を具体的な食品で考えることができる(観察・ワークシートへの記入状況)
4 本時のまとめを聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習を振り返らせ、自己評価を記入後ワークシートを回収する。</li> </ul>	5	

4 授業の視点にかかわる評価の観点

- ・食品カードを使って栄養的特徴で分類したことを通して6つの基礎食品群について理解することができたか。
- ・食品群別摂取量の目安を1日に必要な栄養量として実物の食材を通して食品の概量に置き換えて理解できたか。